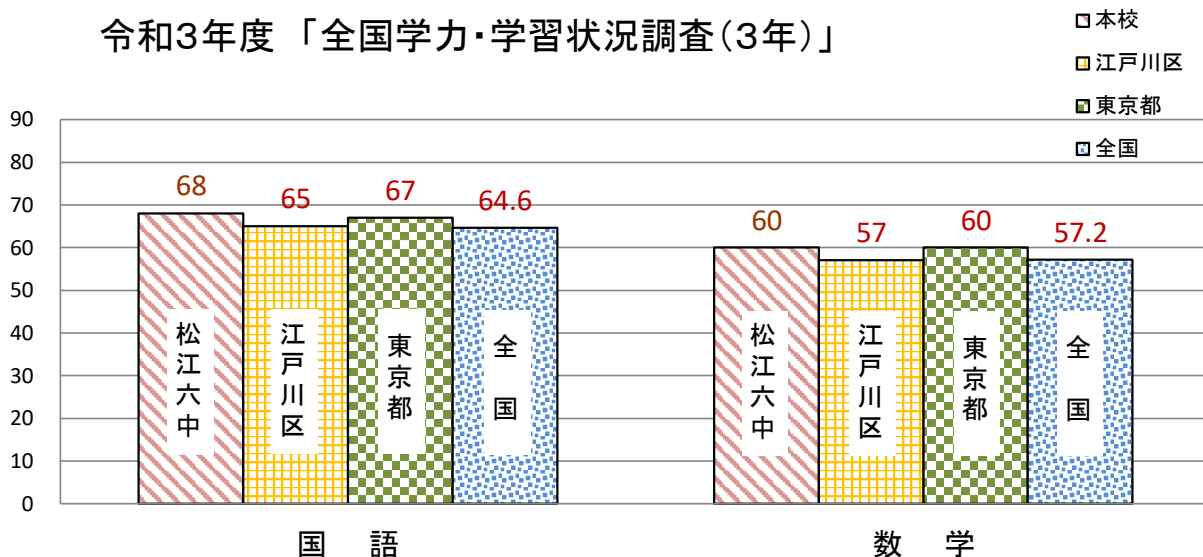


令和3年度「全国学力・学習状況調査(3年)」



※各学校ならびに江戸川区・東京都の全体正答率(%)については、文科省・江戸川区からは小数点以下の数値の公表はされていません

【各教科の結果・考察】

数値はすべて正答率(%)

区分	領域別				評価の観点別					国語全体
	話す・聞く	書く	読む	言語文化・国語の特質	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	知識・理解・技能	
本校	85.7	60.5	52.3	76.5	61.3	85.7	60.5	52.3	76.5	68
江戸川区	71	57	50	74	未公表	71	57	50	74	65
東京都	81.9	59.7	52.5	76.1	59.2	81.9	59.7	52.5	76.1	67
全国	79.8	57.1	48.5	75.1	56.0	79.8	57.1	48.5	75.1	64.6

【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】
 国語全体として、全国はもちろん都の平均正答率を上回る結果であった。各領域・観点別についても、ほぼ都の平均を超えているので、これまでの指導をふまえつつ、漢字・語彙力など学力の基礎・基本となる知識・技能の定着に努め、以下の2点について指導の工夫をしていく。
 ・読書教材を活用し、読みを深めさせ、読み取る力の育成を図る。
 ・自分の考えや意見の根拠を明確にし、文章の構成を工夫させていく。

区分	領域別				評価の観点別				数学全体
	数と式	図形	関数	資料の活用	関心・意欲・態度	数学的見方・考え方	数学的スキル	知識・理解	
本校	66.3	56.4	57.4	56.7	—	43.4	77.1	70.2	60
江戸川区	65	51	55	53	—	未公表	76	65	57
東京都	68.5	56.0	58.1	54.7	—	44.6	79.6	68.1	60
全国	64.9	51.4	56.4	53.8	—	41.1	77.7	65.6	57.2

【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】
 全国平均を超え、都の平均とほぼ同じ結果であった。領域別にみると、資料の活用や図形など具体的に視覚的に捉えやすい問題については良くできているが、文章から数量関係を見出して方程式を立てたり、表やグラフを基にして課題を解決する説明する、数学的な事象を解釈して説明するといった数学的に説明する問題については正答率がやや低い結果であった。
 これらをふまえて今後は、①これまで通り演習問題を通して、基礎的な知識や技能の更なる習得を図る。②根拠を示しながら文章やことばで数学的に説明する場面を多く設定することで、数学的な見方・考え方を身につけさせる。③本校生徒が苦手とする文章題や関数に関する問題にできるだけ多く触れさせることで、苦手意識を解消していく。などを指導の重点として行っていく。